

『看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング』 事例満載！現場がイメージ できる実践技術のガイド本

著：篠崎恵美子・藤井徹也／定価：本体 1,800 円＋税
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



本書は、「看護基礎教育の充実に関する検討会報告書」におけるコミュニケーション能力の強化を受け、初学生向けに、“実践技術”としてのコミュニケーション技術の修得を目指して構成されています。本を読んで実践技術が修得できるのであれば、臨床実習指導でこれほど苦勞するわけがない……。と、学生のコミュニケーション能力のなさに嘆いておられる先生方の声が聞こえてきそうです。私自身も「コミュニケーション技術の修得は臨床実習場面で」と、あまりテキストには大きな期待をもっていない派でありましたが、この本を読ませていただき、改めて、科学的根拠に基づいた「知識」の修得と、臨床実習での「経験」の学習段階がなければ、実践技術は修得できないと再確認しました。

テキストの内容は、3部構成です。この3部の学習段階がとてもわかりやすい！

第1部の「コミュニケーション論」では、コミュニケーションの基本的技術論で構成されており、その構成要素、成立条件、種類、影響要因等について解説されています。イラストがとてもわかりやすく、看護学生として、“通常のコミュニケーションとの違い”といった新しい発見ができ、コミュニケーション技術に大いに興味関心がもてるよう工夫されています。

第2部の「看護におけるコミュニケーション」で

は、看護の専門家としての対人関係を築くために必要なコミュニケーション技法について、13のSTEPからなる看護面接のプロセスに沿って説明されています。看護過程の展開において、学生は受け持ち患者さんの会話ペースに同調してしまい、必要な情報収集が進まないことがあります。本書の「患者中心の面接から医療者中心の面接への移行」は、学生にとってはまさに目からウロコの技法ではないでしょうか。実習前の予備学習または実習後のコミュニケーション評価に大いに活用できます。

第3部の「高度なコミュニケーション」では、実際の看護場面で遭遇することが予測されるコミュニケーション困難な状況での対応方法が解説されており、学生が実習を十分イメージできる構成となっています。この章では、実習中「私はどう対応すべきか？」と、具体的例示をもとに考え、看護の専門家としてのコミュニケーション技法をトレーニングすることができます。

従来のテキストとは異なり、繰り返しトレーニングでき、章ごとに理解度を確認できる問題も掲載されていますので、段階をおって学習が進められます。基礎教育、卒後の新人教育の学習用テキストとしてお勧めだと思います。